# この経験を次の勝利へ

今回の統一地方選挙の最後をかざる市長、市議選は、特に大牟田では、三池斗争の延長として、たたかわれた。会社側の市長候補円仏氏と、われわれの代表坪沼氏の一騎打ち、市議候補をめぐるはげしい得票争いに、三池労組、三池主婦会全員は、火の玉となってとりくんできた。結果は、市長は八千八百票の差で、市議は十四名の当選者で、いずれも大地評としては躍進できなかったが、三池労組の斗いをみる場合、後退したとはいえない。四千五百の組合員を持つ組合が市会議員、一〇名、村会議員を、しかも全員当選させたという例は他にない。これを大牟田だけに限ってみた場合、二千八百五十二名の大牟田在住三池労組員が獲得した市議得票は一万百九十票で、これは一人当り三・六票を獲得したことになる（荒尾関係は三・二票）。これを大地評全体からみた場合、三池労組員が地評全体に占める割合は一四パーセントにすぎないが、大地評全体の得票数三一、二〇五票の内に、三池労組が得票した総数は一〇一、九〇票で全体の三一パーセントを占めている。（大地評全体では一人一・四票の割）この数からみても、われわれの団結の力は益々固まっていることがはっきりとうかがえる。皆が運動員になってがんばった今度の選挙をふり返って組合員、主婦の声を集めてみた。（編集部）

## 皆が運動員に!!
## 家族ぐるみで斗いぬいた選挙

### 舌たらずでも一生懸命に

**全国の仲間にみせるためにも**

組織決定候補の当選のために、全員が頑張ってきた。組織分裂後はじめての地方選挙で、三池労組の底力を示すときはこのときとばかり全力を尽してきた。

「今までの選挙は、組織内の者が、決定された候補に投票すればよかったのですが、今度はそういうわけにはいきません。しかし、三池斗争を斗ってきた私たちは、どんなことがあっても、三池労組が推す候補は当選させねばならないと思いました。

分裂した第二組合も候補を出す以上、第二には絶対負けられないという気持がありました。また、私たちの代表を通すことが、三池斗争を支援してくれた全国の多くの人たちにも、三池がその後どのくらい頑張っているかをみせることになると思いました。」（宮原＝平川さん）

大牟田市長選挙は、八年間の細谷革新市政をさらに実のあるものに市民のための市政を確立するか、再び三井のための市政に逆もどりするかの重要なわかれ目をなすものだった。

「地元出身の市長でないとか、赤字宣伝とか、失対の悪口など、さまざまな悪宣伝がなされていましたけれども、やはり、貧乏人の気持は、坪沼さんでなければわからないと思います。」（宮原＝江崎カオルさん）

「とくに、相手の円仏候補が、三池斗争のときにはたした役割を身にしみて知っていることと、第二組合が「今度の市長選は三池斗争のつづきだから、会社が推す円仏氏を応援するのだ」とはっきりいっていたことが、私たちをここまでハマらせた一番大きな原因でしょう。」（新港＝瀬口さん）

**皆の眼の色が変った**

「一日もじっとしておれないような気持でした。ちょっとでもひまがあれば、票とりに出かけないといられないような気持でした。」（四山＝長島さん）

「各班ごとに、気の毒になるくらいひんぱんに常会を開いてもらいました。地域集会、主婦会集会、合同集会などで合理化の惰宣とからませて、今度の平和斗争の重要性を話してもらったので、みんながなぜ勝抜かねばならないかをしみじみと身にしみて感じたと思います。」（四山＝仲沢さん）

このような努力は、確実に票をつかんでいった。

**保守の人も感心**

「一度や二度たのんだくらいではなかなか安心できません。会議でも再確認をたんどもたのみました。再確認が四回もかさなると、ききに行くのがいやになりますがそれでも、三回目くらいで「他からもたのまれていたが、奥さんの熱心さには負けた。必ず入れますよ」といわれたこともありました。また、たまたま保守側の人の所ではなしたときも「あなたたちほど熱心になるなら、必ず当選しますよ」と感心されたこともありました。」（四山＝仲沢さん）

**貧乏人同志の気持を知った**

「票とりに活動する中で、貧乏人は相見互いだということを知りました。知人の知り合いの生活が苦しそうな家に、たまたま行ったのですが、気さくで、ほんとに、私たちの味方だなという感じがしました。」（四山＝仲沢さん）

**第二への態度も反省**

「第二の中にも円仏推せんに疑問を持って、こちらに入れてくれたひともいます。今まであまりにも強く当っていたので選挙のときは苦労しました。今までの第二への態度を反省しています。」（新港＝川口さん）

「執行部から〝第二も同じ労仂者だ〟といわれていましたが、今度の選挙を通じてはじめて、接触しました。」（四山＝長島さん）

このように、得票数の上にあらわれた組織外からの票は、組合員ひとりひとりの熱意と、尊い経験の上にかちとられたものであった

## 全体の強化を
## 今後は地域共斗の先頭に

**市長が落ちてガックリ**

「市長だけは、坪沼さんを通したい気持でいっぱいでした。北九市長選からつづく革新の勝利で、多分通るだろうと思っていたのですが、坪沼さんが落ちたと分った時はガックリして、晩ごはんもたべく元気がないほどでした。」（宮原、平川さん）

「市長で敗れたときは、ほんとに残念で、二晩もねむれないほどでした。それもあまりの大差だったので、労仂者の町でありながらどうして、こうも頭のきいかえが出来ないものかとなさけない気持でいっぱいでした。ほんとに坪沼さんの顔がちらついねむれませんでした。」（新港、川口さん）

「労仂者の街でありながらどうして労仂者の代表を出しきれないのでしょうか。市議で田中さんが上った嬉しさよりも市長が落ちた残念さの方が強かったですよ」（四山、高原さん）

**組織労働者の強化をみんなで考えよう**

「農民や漁民をわれわれ労仂者の側にひきつけていくことも大切ですが、まずなんといっても、組織労仂者を強化する必要があると思います。今度の選挙の結果をみても、大地評全体の労仂者がしっかりしなければ、と思います。私達も、執行部にだけ対策をまかせずに、組合員自身が各関連産業に仂きかける必要があると思います。私も、主婦会の中にだけしかつながりを持っていなかったけれど、もっと外につながりを持たねばならないと思います。」（宮原、平川さん）

「私達も、大阪弁や熊阪弁での評判をよくしていくことを通じてひろげてゆかねばならぬ。選挙の時だけ運動してもだめだと思います。農村、漁村にもつながりをつけねばと思いますが、どこから、どう手をつけていいかわからないのが一番はがいい気がします。」（宮原、江崎さん）

「組織外からとった票の名簿を中心に、具体的に住民との連けいを強めてゆかねばためです。住民との共斗と関連産業の労仂者が強くなることが何といっても大切です。」（新港、瀬口さん）

### 今からつぎの運動を

「今度の地方選で示した三池労組のこの団結の力をくずさなければ、第三次合理化がきても大丈夫だと思います。四年後には再び坪沼さんが出馬するそうですから、私達も今日から運動を始めねばないません。政治局員も、今から市政報告でもいいから、運動をはじめてもらいたい。はじめは、二、三人からでもはじめねば。円仏市政になって一番心配になるのは、失対の仲間達のことです。大牟田市の失対事業の仲間五千名を三池労組がつつんで斗わねばならないと思います」（新港、川口さん）

「今度の選挙でたのんだ人にはちゃんと後始末をして、次の選挙をたのんでいきます。」（宮原、江崎さん）

「三池労組と他の関連産業の労仂者との交流会などをつみ上げていき、お互に労仂者の代表を出さねば本当にだめなのだということを話し合っていったらいいと思います。そして、四年間の内に体制を固めて、この次はぜひ革新市政をとりもどさねばならないと思います。円仏が市長になったので、合理化が早まるのではないでしょうか」（四山、仲沢さん）

**この経験を生かそう**

われわれが必死で斗った選挙を終って、素直な声を収録してみました。われわれは今回の経験を十分に生かして、仂く者全体の前進のために頑張りましょう。

### みんなの胸にバッヂをつけよう

三池労組のバッヂは斗争後、新しいデザインになったが、このわれわれのシンボルは、全国各地にちらばる離転者の仲間達の胸にもかならず光っている。

ところが、山元の組合員の中には、これをつけていないひともいる。

先日、帰郷した東京の離転者分会の仲間の一人が、これを不思議がって、組合本部に、全員がつけるように申し入れてきた。

われわれも、斗う三池労仂者の誇りとして、われわれのバッヂを必ず全員胸につけよう。

なお、バッヂは組合本部にたくさんあります。

一個三十円です。

▽　▽

## すべての成果を反合理化に

長く記者に聞く

### 三池の孤立化ねらう？ここで自信をもとう

**問** 保守市政ができて、三池労組への攻撃はどう強まるでしょうか

**答** 八千八百票の差は大きいようだが、円仏の持っていた条件（会社との関係、地元に様々な企業や財産を持っている、資力）と坪沼さんの条件（全くの組織力だけ、四年間不在、資力に乏しく、立遅れ）を比較してみると四万六千の得票は大きく評価してよい。

三井鉱山はこの力の中心が三池労組であり、第二組合員からも相当多数の同調が成功したことをよく知っている。だから、円仏市政になったからといって、甘くみることはできないだろう。

しかし、円仏も三井もずるいやり方で、市民をまきこみながら、労仂者の孤立化をはかる知能犯的政策をとることは明らかである。

三井は争議直後のように、それみろ、労仂者の団結の力は会社にかなわないのだという攻撃を各企業所ごとにかけてくるだろう。

但し、市坑、市教組、自労には直接すぐ攻撃が起るだろう。

以上のとおり、われわれが示した団結力に確信を持っていいということであるが、同時に地域共斗が急務となる。

### まず身近かな所からひろげよう

**問** 他産業の労仂者や市民との交流を皆がひろげるには？

**答** 第一に、円仏市政が三井市政たらざるをえないということをわれわれひとりひとりが把握し、わすれないこと。

第二に、これを買物、集会、家族の話し合いなどで日常接するすべての人びととの話し合いの中で中心の話題にしてゆく。

第三に、関連産業の労仂者には特別に仂きかける必要がある。

第四に、近くのアパート、社宅などにはなんとかして、ぜひはいっていこう。これはＰＴＡ、内坑、学校の先生の仲介などを通じていく。

第五に、大地評、荒地評として全体的対策を持つこと。

### すべてを反合斗争に！

**問** 全体的に、今度の選挙を通じて反省すべき点は？

**答** 反合理化斗争のさ中らしい団結と抵抗を示し、従来のいかなる選挙以上に斗った。

しかし三池労組員は互に検討を加える必要がある。特に第二組合員との関係で労仂者らしい一つの雰囲気を前進させることができたこれを土台に、日常の坑場でも労仂者らしい雰囲気を作り、すべてを反合理化の斗いに結集しよう。

今度の組織的な斗いの経験を日常斗争に結びつけ、合せて、体制的反独占斗争をどう前進させるかをみんなで考えたいと思う。